

2月「Deutscher Karneval」 アントニア・シュルト

2月は北ドイツ人ならよく分からない、「五つ目の季節」と呼ばれている一週間の祭りがあります。「カーニバル」という伝統的な祭りで、世界で有名な「リオのカーニバル」に似ていて、ドイツ人も色々ふん装したり、異常な行動を見せたりしますが、私の住む地域ではこんな祝い方をしません。

本来、イースターまでの約6週間は「四旬節」となっていますので、アルコールやタバコや油っぽい食べ物など遠慮し、小さい罪悪を抑えようとする時期です。「四旬節」が始まる前もう一度好き放題食べたり、飲んだり、楽しんだりしたい気持ちがこのカーニバルの始まりだそうです。「四旬節」というのはイースターまで、

特に西ドイツのケルンとデュッセルドルフのカーニバルが有名で、「老女のカーニバル」という日から「聖灰水曜日」まで、全地方が異常状態に入ります。19世紀から、すなわち西ドイツがナポレオン軍に占領されてから、カーニバルの期間中政府・社会批判を言えるようになりました。「懺悔月曜日」の行列はそれでドイツのカーニバルのハイライトで、北ドイツの私でも面白いと思って、たまにテレビで観ます。